

Sバス西部線の見直しについて

<経緯>

Sバス西部線の主な運行区域である千郷地区は、高齢者への支援対策を重要な課題として、「千郷地域計画」に位置付けている。

その一環として、高齢者のおでかけ促進や買い物等困難者の解消を図り、高齢者が安心して暮らしやすい地域を目指し、令和2年2月、移動手段の確保のための施策検討や事業提案を行う地域住民を主体とした検討組織「千郷地域の足の確保検討委員会」を発足した。

地元の民生委員の協力により、高齢者の移動ニーズ調査を実施し、Sバス西部線のほか、様々な移動手段の確保について意見を出し合い検討を進めてきた。

<検討課題>

Sバス西部線は、平成28年度に川田地区、豊島地区をカバーする路線延長を行ったが、現状では、千郷地域の中心部を東西に走る新城市街地と豊橋市、豊川市を結ぶ豊鉄バス新豊線のバス停（千郷小学校前、野田城、大野田、豊島口、川田平、川田）やJR飯田線野田城駅との接続が十分とは言えず、特に片山区、徳定区、今出平区、中市場区はバスがなく、白子区、諏訪区、石田区、上市場西住宅区の高齢者にとっては公共交通が利用しにくい地域となっている。

千郷地区は新城市で最も人口の多い地域であり、大型スーパーの出店や医療機関の開業などが相次いだ、公共交通が地域住民の移動ニーズの変化に対応できていない。

また、バス停の名称についてもわかりづらいといった声が多く寄せられている。

<検討の状況>

令和2年2月からこれまでに18回の検討会を開催。

① Sバス西部線に接続するための移動手段についての検討

- ・行政区単位では継続して実施できるほどの協力体制が作れず、全地区を対象とするならばタクシーとの棲み分けが図れない。

② Sバス西部線の見直しの検討

(1) Sバス西部線を隈なく循環させる運行

→ バス停の増加に伴い路線延長となり、運行効率が悪い。

(2) 定時定路に一部デマンド運行を併用（参考：三重県松阪市機殿・朝見地区）

→ 目的地と住宅地が入り組んだ千郷地区では、運行効率を改善できない。

(3) 千郷地区をエリアごとに予約に応じて運行

（参考：長野県飯田市いいだ愛のりタクシー）

→ Sバス西部線見直し案のとおり

③ 試験運行

令和4年9月26日（月）豊鉄タクシーの車両を用いて実施。30分以上の遅延

令和4年10月12日（水）市の公用車を用いて実施。遅れなく良好

④ 現地視察

令和4年11月2日（水）飯田市視察。飯田市役所及び南信州広域タクシー(有)

- ・公共交通対策室2名、豊鉄タクシー(株)1名、地域の足の確保検討委員会2名

< Sバス西部線見直し案 >

路線名	西部線
運行形態の概要	(変更前) 運行方法：定時定路線運行 (変更後) 運行方法：区域運行（一部予約に基づくデマンド運行）
変更理由	利用状況及び地域住民との協議を踏まえ、運行の効率化を図るとともに全地域住民が利用できるようにする。
運行時間帯	午前7時台～午後5時台
運行日	月曜日～金曜日 (土曜、日曜、祝日、振替休日及び12月29日～1月3日まで運休)
運行本数	1日往復5回
バス停数	(変更前) 27箇所のバス停 (変更後) 44箇所の指定乗降場所
料金体系	大人：200円 小学生・障がい者：100円
運行事業者	豊鉄タクシー株式会社（予約受付を含む）
予約方法	電話または予約システム「ロコバス」による
予約受付時間	利用日前日の16時まで（前日が運休日の場合はその前日。）
市の関与	運行業務委託契約
運行車両	1台（9人乗りハイエース）
路線概要図	別紙のとおり

< 千郷地区への周知 >

令和5年1月12日 新城市地域公共交通会議での協議

令和5年1月18日 千郷地域の足の確保検討委員会
・地区説明会の打合せ

令和5年1月中 千郷区長会を通じて17行政区での説明会日程調整

令和5年2月～3月 Sバス西部線の運行方法及び予約方法についての説明会実施

令和5年4月以降

公共交通対策室と千郷地域の足の確保検討委員会が連携し、必要に応じて運行方法及び予約方法についての普及活動を実施。

また、乗降調査や利用状況のモニタリング等を通じて、指定乗降場所の見直しや利用促進策についても行っていく。

千郷地域自治区からSバス西部線車両のラッピングについて建議されている。

（地域自治区予算事業）